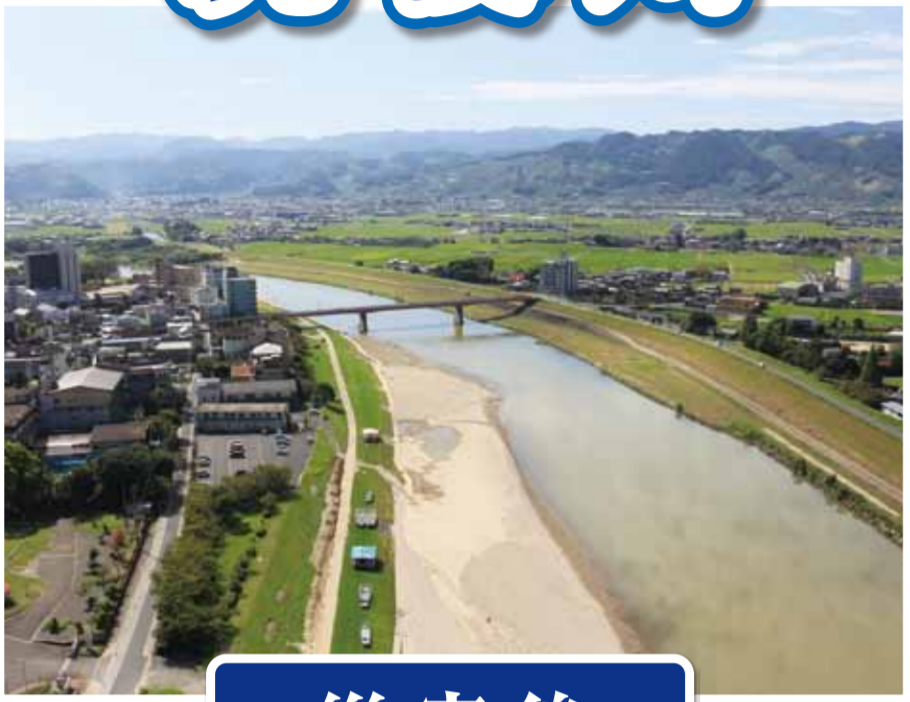


受け継がれる自然の恵み

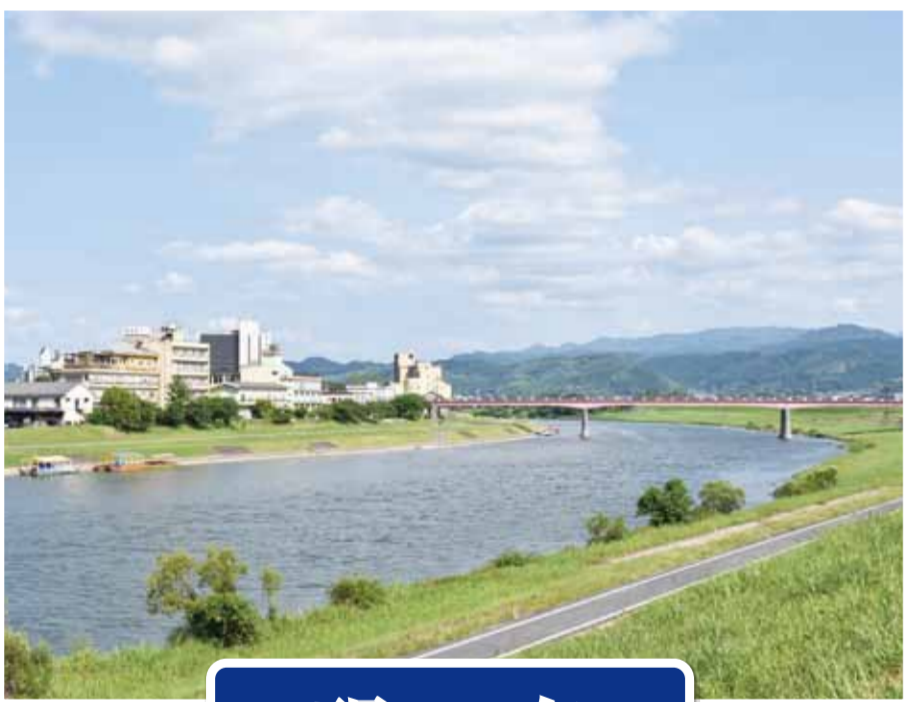
●発行日: 令和元年(2019年)7月1日 ●発行場所: 朝倉市・朝倉市環境アクション協議会 かべ新聞編集委員会 〒838-0062 福岡県朝倉市堤4-6 電話 0946-22-1111(朝倉市 環境課) ●印刷: イーアス福岡(株)

筑後川



災害後

土砂が川に流入して
船を降ろすことが出来なかった



現在

お知らせ

「かべ新聞第23号(平成29年7月1日号)」について、災害が発生したため配布できませんでした。今回、その時の記事を一部再掲しています。

毎月第2週は
きらきら美花美化
週間
きららちゃん

掲示期間 令和元年7月1日～令和元年10月31日まで



復活した伝統の鵜飼

平成29年の九州北部豪雨のため、中止されていた鵜飼が昨年より復活しました。

原鶴では、伝統的な漁としての鵜飼が行われており、鵜匠と鵜が一体となり、漁をする光景を見ることが出来ます。

ライトに映し出された水面から鵜が潜り、魚を啜り出してくると屋形船に乗った乗客たちの歓声が聞こえてきます。

夜のとばりの筑後川から悠然と漁をする鵜たちを見てみると、古の先人たちの知恵に思いをはせ、時が止まったような不思議な感覚を覚えます。

鵜飼の歴史は古く、古事記や日本書紀にその記述を見ることが出来ます。

7世紀に書かれた「隋書倭国伝」には、北部九州で鵜飼が行われていた記述がありますので、筑後川では、昔から行なわれていたと思われまます。

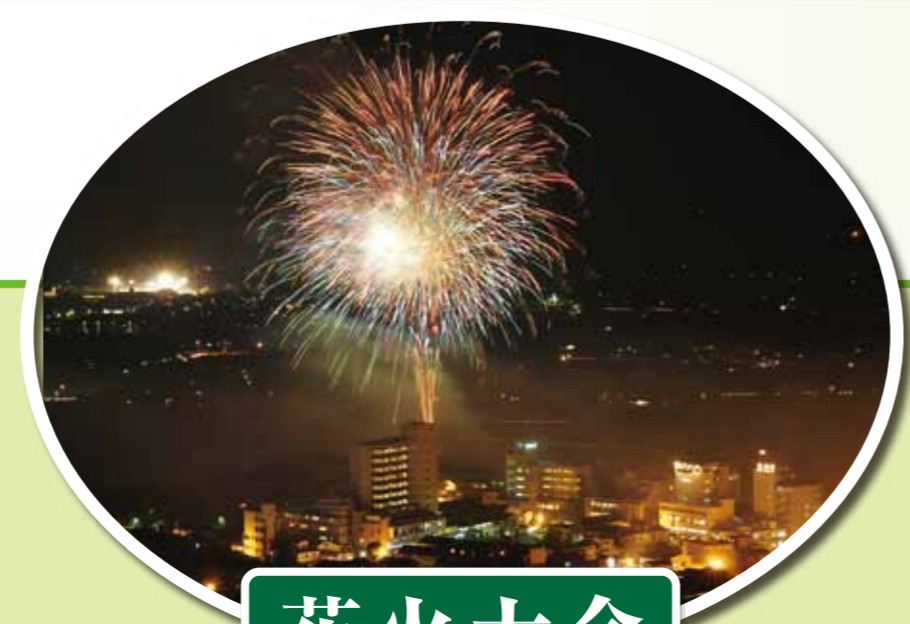
昔は、鵜飼は、徒歩鵜といひ、片手で鵜を操り、もう片手で松明を持って、行われていました。

現在のような舟鵜飼は、江戸時代に始まったといわれています。



鵜

鵜飼の鵜は、河鵜ではなく、海鵜を捕獲し、時間をかけて川にならし漁を行います。海鵜は、喉が大きいのでたくさんの魚を飲み込むことができます。鵜飼は、5月20日から9月下旬まで行われます。



花火大会

原鶴温泉花火大会(5月下旬頃)は、鮎魚の解禁日以降に行われる夏の風物詩です。三千発の花火が初夏の夜空を彩り、多くの見物客で賑わいます。

「原鶴の湯」は、毎分3000Lの福岡県随一の湧出量です。

トトロとした肌触りが特徴的なpH 8.5以上の弱アルカリ性単純泉と単純硫黄泉です。

原鶴マスコットキャラクター「つる姫ちゃん」

シリーズ山城 第8回 古処山城



水舟



古処山城

古処山山頂(標高859m)一帯に広がっていた戦国時代の山城で、筑前の中・南部の一帯を支配した秋月氏の本城でした。

登山道の8合目には、一日千人の兵の喉を潤したといわれる「水舟」と呼ばれる湧水のある場所があり、山の頂上近くには、大きな岩の「大将かくし」や「奥の院」等があります。

朝倉青年会議所の創立50周年記念事業 頓田の森平和花園



朝倉青年会議所が音頭をとり、平和実行委員会、一般公募、小学校、コミュニティ等で紫陽花やシロツメクサ等の植栽を行いました。

岩下部会長より「この頓田の森へ来て、あたりまえの幸せを感じ、「平和の大切さ」を次世代の子どもたちに伝え、大きな変化をもたらす気づきの場所としてくれたらと考えています。」と挨拶がありました。